

鎌倉投信株式会社

「いい会社」を応援する投資信託：結い 2101

鎌倉投信は、公募投資信託「結い 2101」の直接販売に特化した、投資信託の運用・販売を営む資産運用会社である。SDGsやESGが注目されるようになる前から、鎌倉投信には独自の投資哲学に基づいた運用方針があり、現在もSDGsやESG投資を念頭においた説明を積極的にしているわけではない。その理由としては、ESG投資との同質性や違い等にこだわるよりも、本質として大切なことは個性のある企業を応援することだと考えているからである。同社は、日本も課題先進国であるため、社会課題の解決なしには発展できず、事業性と社会性を両立できる会社に投資することが重要であると考えている。

鎌倉投信の事業において注目すべき特徴は、「結い 2101」の運用方針にあるだろう。2010年の運用開始以降、「結い 2101」を通じて、日本全国の全上場企業と一部非上場企業をユニバースとして、事業性と社会性を両立できる「いい会社」に投資している。「いい会社」のテーマは「人」、「共生」、「匠」の3つである。「人」は、会社の内部体制や社員のモチベーション等、人財を活かせる企業かという観点である。「共生」は地域社会や自然環境への対応といった、循環型社会を創る企業かという観点。「匠」は日本の匠な技術・優れた企業文化を持ち、また感動的なサービスを提供する企業かという観点である。

更に「人」、「共生」、「匠」をそれぞれ3つに分類した計9つの項目から、投資先を選定している。属人的判断は極力避け、社内で知見・ノウハウを共有しながら合議制で投資の意思決定をおこなっている。財務面や流動性も考慮はしているが、

同社が重視しているのは「いい会社」かどうかであるという。

2019年11月末現在、投資先数は67社にのぼり、結果的に、大企業よりも時価総額が中・小規模な企業への投資が多い。「いい会社」の定義については、いい会社を決めるのはあくまで世間であり、皆から「いい会社」と云ってもらえる会社への投資を目指している。また、一度投資を開始したら、上記の評価視点に合致する特徴が変わらない限り、保有し続ける。一方で、懸念事項がある会社には追加の投資の見合わせ、改善の意向が確認できない場合は全売却も実施しており、直近の決算期(2018年7月20日～2019年7月19日)では計3社の売却を実施した。

こうした運用を行いつつ、同社は経済的リターンも生み出している。「結い 2101」が目標としている年率リターン4% (信託報酬控除後) に対して、過去5年の実績は年率4.8% (信託報酬控除後、2019年7月19日時点)。当ファンドはベンチマークをもたないものの、これは、TOPIXよりも若干高いパフォーマンスである。

通常、運用会社は、投資ノウハウの公開となるため投資先企業を開示しないが、同社では、「結い 2101」の投資先を自社のウェブサイト等で開示している。また、単なる開示に留まらず、「結い 2101」の運用報告会や「受益者総会」等の催しでは投資先を積極的に紹介し、投資家との対話の機会も設けている。鎌倉投信は、その投資活動のみならず、投資先の事業内容を紹介することを通じて「いい会社」を応援している。

「いい会社」の着眼点



人	共生	匠
社員個人の尊重	顧客・取引先	商品・サービスの優位性・独自性
企業文化	地域社会	市場性 収益性
経営姿勢	自然環境	変化への対応力 革新性

本資料の無断転載・複写を禁じます。COPYRIGHT KAMAKURA INVESTMENT MANAGEMENT CO., LTD.

「いい会社」の着眼点

※受益者総会®は鎌倉投信の登録商標です。